

公益財団法人 北九州観光コンベンション協会

公益財団法人 北九州観光コンベンション協会

I 法人の概要（令和8年4月1日現在）

1 所在地

北九州市小倉北区浅野三丁目8番1号

2 設立年月日

昭和51年3月25日

3 代表者

理事長 津田 純嗣

4 基本財産

1,907,526千円（設立時の基本財産 2,416,798千円）

5 北九州市の出捐金

1,650,000千円（出捐の割合 68.3%）

6 役職員数

	人 数			
	合 計	うち本市からの派遣	うち本市退職者	うちその他
役 員	11 人	0 人	1 人	10 人
常 勤	1 人	0 人	1 人	0 人
非常勤	10 人	0 人	0 人	10 人
職 員	64 人	5 人	1 人	58 人

7 団体のミッション

- 北九州観光コンベンション協会がこれまで培ったネットワークやノウハウを未来に確実に引継ぎ、さらに発展させる（ネットワークやノウハウは再構築が困難）。
- それらのポテンシャルを十分に発揮できる体制を整備し、北九州市と共同して、宿泊や市内消費など経済活性化に寄与する「MICE誘致・開催支援事業」「展示会・イベント開催事業」「観光事業」をさらに推進する。

II 令和7年度事業実績

【概況】

MICE分野では、自主企画展示会の実施やコンベンション等の誘致・開催、貸館営業のほか、夏季のにぎわいイベントの実施などに積極的に取り組み、会議・大会等は延べ233件開催され、施設来場者数についても96万人を集めた。

特にコンサートや大型スポーツ大会などの大型催事が増加し、貸館事業収入は前年を上回った。

観光分野では、観光客誘致・滞在化促進のため、国内外へのセールスの実施や、情報発信、観光に関する施設の管理・運営に取り組んだ。売店事業ではインバウンドや団体観光客等の回復に

より収益が改善し、北九州おみやげ館は過去最高の収益となった。また、令和 6 年度より立ち上げた旅行事業については、北九州市と連携したツアーやイベントの実施、また団体の海外インバウンド受入れ対応等により収益が増加した。

経営面においては、協会全体が一丸となり事業に取り組んだ結果、収益黒字を維持することができた。今後も、新たな事業展開に向けた準備や、コスト管理を徹底し、自立した経営を維持・強化しなければならない。

見本市・展示会事業

1 主催展示会の開催

(1) 概要

◆当協会主催の展示会・見本市事業

事業名		開催期日	入場者数（人）		出展社数（件）	
				(R6実績)		(R6実績)
課題解決EXPO2025	西日本製造技術イノベーション 2025	7/2-4	17,023	17,224	38	48
	西日本 DX 推進フェア 2025				60	56
	エコテクノ 2025 ～地球環境ソリューション展/エネギ-先端技術展～				52	65
	ベンチャー・メッセ 2025				12	13
	中小企業テクノフェア in 九州 2025				82	54
	ふくおか未来ものづくり技術振興展				25	24
第 46 回西日本陶磁器フェスタ		9/19-24	51,758	49,118	245	235
合 計			68,781	66,342	514	495

ア 複雑化する地域企業の課題解決に対応する「課題解決EXPO」の開催継続

製造業・DX推進・環境産業・中小企業をテーマとした展示会を一堂に集め、地域企業の課題を解決に導く「課題解決EXPO」を引き続き開催した。会場では、生成AI、半導体、カーボンニュートラルなど、様々なテーマについて展示とセミナーによる情報発信を実施した。また展示会とあわせてビジネスマッチングや商談会を行うことで、相乗効果による取引の拡大を図った。

イ 西日本陶磁器フェスタの魅力向上と安心・安全への取り組み

当フェスタは、全国でも最も伝統ある陶磁器展示会の一つである。芸術（西日本陶芸作家展）・文化（生け花&茶道と器）の視点での様々な企画を展開し、伝統工芸を担う窯元等への市場の提供や地域経済の活性化を目的に開催した。令和 7 年度も引き続き、ホームページ活用による出展窯元の紹介や作品PRの拡充・強化、SNS情報発信等により各窯元の販売支援を行い、購買意欲の高い層へのアプローチと集客の強化を図り、出展窯元の満足度向上に努めた。併せて、ファミリー層来場の促進と滞留時間延長を目的にふれあいとモノづくりの広場（土日祝限定）を実施した。また、引き続き台風リスクに備え 5 日間の会期を 6 日間に延長して開催した。

ウ その他事業

◆当協会主催のその他事業

事業名	開催期日	入場者数
泡盛ナイト in こくら	R7 年 7 月 31 日	125 人 (136 人)
第 30 回北九州将棋フェスティバル	R7 年 10 月 4 日～5 日	861 人 (739 人)
手づくり市場 in 北九州 2025	R7 年 11 月 8 日～9 日	9,971 人 (10,619 人)
第 25 回全国俳句大会 in 北九州	R8 年 2 月 27 日～28 日	1,014 人 (1,106 人)

※ () 内は令和 6 年度実績

(2) 国際ビジネスの推進

海外企業との取引促進や国際競争力の強化を目的に、北部九州とアジア地域の企業を結ぶ新たな交流の場や情報発信の場とすべく、韓国釜山広域市国際展示場 B E X C O との連携事業を進め、また、課題解決 E X P O 内に、北九州貿易・投資ワンストップサービスセンター、ジェトロ北九州、台湾貿易センター福岡事務所による出展を得て、出展社・来場者へ海外取引や投資の促進など最新情報の提供を実施した。

会議・大会等

2 M I C E 誘致

(1) 概要

前年度に引き続き、キーパーソン・学協会等への営業活動、各種商談会への参加を計画的に実施するとともに、J N T O とも連携し情報発信の強化を図った。さらに、営業活動や商談会を対面や現地開催することで、キーパーソンと直接的な関係構築を図り、より実効性の高い営業活動を展開した。また、誘致の都市間競争が激化している状況を受け、会議情報の早期入手と主催者ニーズの的確な把握に努め、競争力のある誘致活動を行った。

◆M I C E 開催件数・参加人数の推移

(単位：件)

区分	国際		全国		その他		合計	
	開催件数	参加人数	開催件数	参加人数	開催件数	参加人数	開催件数	参加人数
R6 年度	87	38,257	100	49,553	88	41,212	275	129,022
R7 年度	82	65,578	73	46,991	78	50,814	233	163,383

(2) 致営業活動

ア キーパーソン・学協会・P C O への営業活動

原則、訪問による営業活動を行った。また、首都圏に在住するキーパーソン、有力な学協会関係者とのネットワーク維持と拡大を図るため、下関市観光コンベンション協会との共催により、「北九州 M I C E 倶楽部首都圏交流会」を東京で開催した。

イ 各種商談会への参加

第 35 回国際 M I C E エキスポ、J N T O インセンティブ商談会、V I S I T J A P A N トラベル& M I C E マート 2025 など、J N T O 等が主催する各種商談会に参加し、国際及び国内会議・インセンティブツアーの新規案件の開拓を行った。

ウ グローバルレベルでの誘致強化

ＩＣＣＡ（International Congress and Convention Association）国際会議協会（マレーシアクアラルンプール）を訪問し、国際会議の最新動向情報の収集を行った。

また、ＩＣＣＡデータバンクを活用した会議誘致や、ＩＣＣＡへの国際会議の照会及び誘致した国際会議の認定を進めるとともに、ＪＮＴＯインセンティブ商談会に合わせて、プトラ大学（マレーシア）やソウル大学（韓国）などを訪問し、誘致活動を行った。

エ スポーツ大会の誘致

スポーツによるまちのにぎわいづくり」や「スポーツの振興」を図り本市の活性化に寄与することを目的に、スポーツ大会の誘致にも取り組み、令和７年度はパワーリフティングの大会である「The Great Games」を小倉駅ＪＡＭ広場に誘致するなど、60件、延参加人数63,514人のスポーツイベントを北九州市に誘致することができた。

(3) 北九州市グローバルＭＩＣＥ推進協議会との連携

令和７年度は、「国際ＭＩＣＥエキスポ（ＩＭＥ）」及び「VISIT JAPAN トラベル＆ＭＩＣＥマート 2025」に協議会と共同出展した。

(4) 観光庁公募事業の採択支援

観光庁公募の国際会議誘致開催促進事業に、当協会が支援する国際会議主催者と連携・申請し、採択された。

(5) 大学との連携協定の推進

連携協定先の大学を定期訪問し、誘致活動とともに確定案件の手続きなどの伴走を行った。

貸館利用者の誘致・営業強化

3 貸館利用者への営業実績

(1) 変化に対応した営業の推進

潜在顧客の掘り起こし、リピーターの利用再開を目的とした積極的な営業を推進するため、営業支援ツールを導入し、顧客データ、コンタクト管理や営業分析など業務プロセスを見える化することで営業効率の向上を図った。また、施設利用者への広報支援等を充実させるなど、更なる利用促進とサービスの向上に努めるため下記の取り組みを実施した。

ア エンターテインメント分野の誘致

令和７年度は趣味的性の高いエンターテインメント分野の誘致を重点的に推進し、以下6件の大規模コンサート誘致に成功した。これらの公演は市外来客の割合が非常に高く、宿泊・飲食・市内回遊など地域経済への波及効果に大きく貢献した。

利用年月日	催事名
2025/5/3-6	2025 TREASURE FAN CONCERT [SPECIAL MOMENT] IN JAPAN
2025/6/5-8	2025 LE SSERAFIM TOUR 'EASY CRAZY HOT'
2025/9/11-14	2025 WayV Concert Tour [NO Way OUT] in JAPAN
2026/1/14-17	高嶋ちさ子のザワつく！音楽会 2025
2026/3/11-15	THE IDOLM@STER MILLION LIVE! 11thLIVE
2026/3/26-29	NiziU Live with U 2026 "NEW EvoNution"

イ 新規利用者の開拓

ターゲット業種（自動車・動植物・文具・建材・食品・衣料・レクリエーション）に対し

積極的な営業を展開し、新規利用者 36 件 を獲得した。

ウ 長期休暇中の稼働率向上

令和 7 年度は、長期休暇の稼働率向上に向け、ファミリー向けイベントやコンテンツホルダーとの連携を強化した。特に、「Bリーグライジングゼファークオカ公式戦」は年末年始の閑散期に、13 日間の長期利用を確保し稼働率の向上に寄与した。

エ リピーターの利用再開・既存利用者の再構築

過去利用者への日程提案を継続した結果、復活案件 3 件を誘致した。

(2) 「営業推進本部」の機能強化

施設の管理・運営及び営業によって施設の設置目的に沿った効果を最大限に発揮するとともに、指定管理者としてにぎわいづくりを戦略的に実施するため、「営業推進本部」として営業課とサービス課がワンチームとなり、更なる機能強化を図った。

ア 「集客にぎわいイベント」への取り組み

令和 7 年度は「トミカ博 in KITAKYUSHU 2025」(本館大展示場)を開催。開催 7 日間で 40,582 人と多くの家族連れの来場があり盛況となった。

イ 北九州市との連携強化

北九州市コンサート誘致コンソーシアムと連携し、歓迎看板の掲出、手荷物預かりサービス等を実施、計 4 回(8 日間)で 529 個の手荷物を預かり、来場者の利便性とコンサート会場としての魅力向上に努めた。

さらに、「THE IDOLM@STER MILLION LIVE! 11thLIVE」において、北九州市と協働し市内 22 箇所を巡るデジタルスタンプラリーを、ライブ開催の週末(3/13~16)に実施した。この取り組みの成果として、市内施設での売上増、集客増が報告されており、ファン回遊による地域経済の活性化が顕著に確認され、にぎわい創出の好例となった。

ウ 国際スポーツ大会等誘致に向けた連携強化

国際スポーツ大会は、エンターテインメントとしての魅力も高く、市の知名度及び経済波及効果の向上に大きく寄与するイベントである。また、誘致においては、周到的日程及び会場調整が必要なため、北九州市スポーツ振興課と連携し、将来に向けた更なる案件獲得への情報収集を継続的に行った。令和 7 年 11 月の「ワールドスケートボードストリート 2025 北九州」、12 月の「高円宮牌フェンシングワールドカップ」の開催に寄与した。

4 地域連携

(1) 小倉駅新幹線口地区振興連絡会との連携

ア 各種情報媒体を活用した情報発信

小倉駅新幹線口地区振興連絡会のホームページを通じて、会員企業・団体の情報発信や閲覧者への賞品プレゼント等を実施した。

イ 「泡盛ナイト in こくら」の開催

小倉駅新幹線口地区のにぎわいづくりとともに会員間の相互交流を深める目的で開催した。

ウ 「あさのクリーンアップ活動」の実施

市内外から小倉駅新幹線口地区の来訪者が、清潔で快適な滞在を楽しめること、また会員間

や会員と浅野地区住民との相互交流による連帯感を醸成する目的で、当該地区のクリーンアップ活動を実施した。

エ その他

小倉駅新幹線口及び魚町商店街にイベント・学会等のおもてなしのため、歓迎装飾を施した。

(2) J R連携事業（J R九州及びJ R西日本との連携）

J R九州・J R西日本と連携し、J R小倉駅等の主要駅に、西日本陶磁器フェスタ等の協主催事業のポスター・チラシ等を掲出し、広域からの集客向上を図った。また、J R小倉駅南口構内の三画サイネージ(Kサイネージ)へ施設利用のP R広告を行った。

5 広報、宣伝

(1) 機関誌・観光関連書籍の発行

北九州観光イベントだより（40,000部）、北九州観光カレンダー（6,500部）

(2) コンベンションゾーンのP R

北九州市の玄関口である北九州空港の電照広告看板やJ R小倉駅J A M広場のマルチビジョン、J R小倉駅新幹線口ペDESTリアンデッキのデジタルサイネージを用いて、施設の利用促進とイベント開催告知及び施設P R広告を行った。さらに、地域生活情報誌への「月間催し物案内」の広告出稿やJ R小倉駅新幹線口・北九州モノレール各駅へのポスター掲示を行うなど、施設利用者への広報を積極的に行った。また、公共性の高い催事については、市政だよりへの記事掲載も実施した。

(3) 小倉駅新幹線口地区魅力アップイベントへの協賛・支援

小倉駅新幹線口地区で開催するイベント（TGC KITAKYUSHU 2025、北九州ポップカルチャーフェスティバル 2025）に協賛及び支援を行った。

管理・運営

6 M I C E施設の管理・運営

(1) 職員の資質・能力の向上

市や他団体が行う階層別研修や能力開発研修等を受講させるとともに、ハラスメント防止研修コンプライアンス研修を実施した。また、M I C E施設全国組織である「国際会議場施設協議会」、「全国展示場連絡協議会」の担当者実務研修にも参加し、他施設との情報交換、スキルアップに繋がる情報収集に取り組んだ。さらに、「J a p a n M I C E E X P O 2025」や「国際M I C Eエキスポ I M E 2026」に参加し、M I C E誘致に関する新規利用者ニーズの把握や提案手法を確認するとともに、当協会営業課、誘致部のほか、P C Oやホテル、旅行社との連携強化を図る能力向上教育を行った。

(2) 管理業務の効率化と環境保全

人件費の上昇や光熱費、主要資材の高騰等、幅広い分野で費用が増大しているため、契約電力や人員の配置などの見直しを行い、コストダウンに努めた。一方で光熱水費は将来のコストアップも視野に入れ料金改定を実施した。

(3) 施設の改修等

ア 西日本総合展示場の改修等

懸案事項である屋根の雨漏りは、過去数年に亘り継続して改修工事を行っている。また、小展示場での壁紙等改修、設置から 15 年以上経過して故障が多かった駐車場ゲートを更新した。様々な箇所で老朽化が進んでいるため、建築士に依頼して令和 7 年度から 8 年度にかけて劣化度診断を実施し、診断結果をもとに今後の長期保全計画を作成する予定である。

イ 北九州メッセの改修等

市の設備工事として防犯カメラ、エレベータ、空調冷温水ポンプ、自動検針システムの更新を行った。また、水回りや建具、電気設備関係の偶発的な故障については、不具合が発生する都度修繕を行った。特に搬入口照明部品が製造中止となり更新が急務となっていたため、一部 LED への交換工事を行った。A I M3 F 展示場の空調設備については、市の設備更新工事が令和 8 年度に持ち越されたため、当協会負担で部分的に更新を行い、利用者から不満が出ないよう対応した。全体的に老朽化が進んでおり、計画的な改修に向け引き続き市と協議を行う。

(4) 各施設の稼働率及び入場者数

施設	件数	(件)	稼働日数	(日)	稼働率	(%)	入場者数	(万人)
		(R6 実績)		(R6 実績)		(R6 実績)		(R6 実績)
西日本総合展示場	88	78	229	253	66.0	73.5	36	34
北九州メッセ	167	149	283	281	80.9	80.5	49	61
北九州国際会議場	454	546	323	332	94.4	96.0	11	8

7 指定管理

令和 7 年度は、指定管理計画に掲げた目標値につき、コンベンション誘致件数、西日本総合展示場施設稼働率が目標未達となった。

◆令和 7 年度 指定管理実績

区分	目標値	実績値
来場者数	96 万人	96 万人
コンベンション誘致件数	250 件	208 件
施設稼働率	西日本総合展示場： 70.0%	西日本総合展示場： 66.0%
	北九州メッセ： 80.0%	北九州メッセ： 80.9%
	北九州国際会議場： 90.0%	北九州国際会議場： 94.4%

観光客の誘致及び滞在化の促進

8 観光客誘致及び滞在化促進

(1) 誘致活動・展示会等出展

北九州市及び観光関連企業と「北九州市国内観光客等誘致促進協議会」、「北九州市国際観光推進協議会」、「北九州産業観光センター実行委員会」を組織し、他都市等にて本市の観光資源や新しい観光情報等の PR を行った。

(2) 産業観光促進事業

産業観光・世界遺産ホームページ及び Facebook の管理・更新、産業観光等の PR を行った。

◆産業観光・世界遺産ホームページ（R7.4.1～R8.3.31）

項 目	当年度	前年度
アクセス数	49,502	57,997
ページビュー	95,526	112,393
内訳） トップページ	13,747	21,868
工場見学	4,980	7,745
工場夜景	2,898	4,182
産業遺産	982	1,221

Facebook：フォロワー：311名（前年度313名）、投稿数：2件（前年度3件）

(3) 誘致PR事業

ア 「すし連携協定締結イベント大阪夏の陣」への出展

富山県と北九州市のすし連携協定締結を記念したイベントに出展し、両地域の地酒飲み比べ・特産品販売を通して、本市観光PRを行った。

イ 「渋沢栄一と一万円札 ゆかりの地物産展」への出展

東京商工会議所主催の物産展に出展し、本市のお土産品販売ならびに観光PRを行った。

ウ 「ツーリズムEXPOジャパン2025」への出展（Aichi Sky Expo）

ツーリズムEXPOジャパン2025へ出展し、産業観光のPRを行った。

(4) 世界遺産関連事業（北九州市世界遺産ガイドボランティアの運営業務）

ア 世界遺産眺望スペース 案内人数5,953人

イ 世界遺産ビジターセンター 案内人数：602人

9 インバウンド誘致事業

(1) 九州インバウンド観光説明会・商談会

東京国際フォーラムにて開催された同会において、ランドオペレーターや観光関係者との商談等を行った。

(2) タイ旅行会社、ベトナム市場向け観光説明会

タイ（バンコク）、ベトナム（サイゴン）にて、観光説明会及び商談会を開催した。

(3) 2025 台北国際旅行博、高雄国際旅行博へのブース出展

(4) NOW MAPによる広報PR

市内事業者と連携し、福岡市の海外旅行者向けパンフレット「NOW MAP」に北九州市観光PR欄を掲載した。

10 旅行事業

(1) 国内

北九州市及びその近隣地域へ訪れる観光客や、当協会が誘致したコンベンション等の参加者に対し、さらなる滞在時間延長や、地元経済の消費拡大を図るため、募集型企画旅行商品の企画・販売を前年度に引き続き行った。

令和7年度も「企救焼窯元体験ツアー」等の販売を継続し、EXPO大阪・関西万博のポータ

ルサイトにも商品の掲載を行った。

また、小倉北区役所からの委託により、旧小倉市制 125 周年事業の一環として、北九州モノレール開業 40 周年を兼ねたツアーや、小倉北区の都心部を巡りクイズを解いていくイベントを企画・造成し、実施した。当該事業の認知度を向上させるため、Instagram などによる PR 等を行ないさらなる利用者増を図った。

(2) インバウンド

- ・中国人夫婦ゴルフツアー（参加者 72 人×4 泊）
- ・台湾人中学生サッカーキャンプ（参加者 30 人×5 泊）
- ・中国小学生サッカーキャンプ（参加者 9 人×6 泊）

観光に関する人材の育成及び啓発

11 観光人材の育成

(1) 百万にこここホスピタリティ運動（観光業務従事者研修会）

北九州マラソンや就職進学等で来北される方へのおもてなしを目的に、賛助会員に呼びかけ出店希望者を募り、当協会含む計 8 ブースで市内の料飲食品や民芸品等の PR 事業を行った。

(2) 観光案内ボランティア制度運営

旅行会社等からの依頼による門司港レトロ地区等での観光案内や、イベント、祭りに合わせて設置した特設観光案内所でのボランティアガイド活動を実施した。

- ・令和 7 年度観光案内ガイド件数・人数・活動者数：1,137 件、16,405 名、1,530 名
- ・イベント、祭りでのガイド件数、案内人数：106 件、152 名

(3) 北九州観光市民大学

本市の観光や歴史、文化等の学びを目的に、北九州観光市民大学を開講した。令和 7 年度は 29 名の参加があり、そのうち、16 名が観光案内ボランティアに登録した。

特産品の紹介・宣伝

12 特産品の紹介・宣伝

市内外で開催される催事・イベントにて臨時売店の出店を行った。主催事業においては、事業部と連携し食品ロスに対応した事前受注形態による地場産品の有効な PR と販売を実施した。また、通販サイト内に特別サイトを構築した。

加えて、誘致部や宿泊施設と連携し、様々な団体へ「北九州土産品セット」の提案、スイーツセッション用茶菓子を販売するなど新規顧客の創出を図った。

さらに、土産品に特化した Instagram での情報発信、賛助会員と「MARQERS オリジナル商品」を製作、販売するなど地元産品の PR に努めた。通信販売では新商品をいち早く展開し、顧客の獲得に努めた。

観光に関する施設の管理運営

13 観光施設の管理・運営

(1) 観光案内所

北九州市、ＪＲ九州、西鉄バス北九州、北九州エアターミナルと北九州市観光案内所運営協議会を組織し、官民一体となり観光案内所におけるサービス強化を図った。

令和７年度は、装飾等による案内所の観光スポット化やＳＮＳ発信を行い、北九州市の「ファン・リピーター」を増やす取り組みを行った。

また、インバウンドの増加に伴い、外国人旅行者とのコミュニケーションを通じて求められる情報やサービスを提供することで、北九州市と外国人旅行者とのコンタクトポイントとしての役割を担い成果を発揮した。

こうした取り組みが評価され、北九州市総合観光案内所が日本政府観光局（ＪＮＴＯ）が実施する「2025 年度ＪＮＴＯ認定外国人観光案内所表彰」において、「訪日客へのホスピタリティ」部門の受賞認定案内所に選定された（全国３カ所のみ。）

<来所者数>

- ・北九州市総合観光案内所 : 86,581 人（前年実績：83,354 人）
- ・門司港駅観光案内所 : 59,525 人（前年実績：43,612 人）
- ・北九州空港総合観光案内所 : 19,050 人（前年実績：15,961 人）
- ・北九州市観光案内カウンター : 9,392 人（前年実績：8,211 人）

(2) 土産品・特産品売店

門司港レトロ地区の主力の観光物産店として運営している「北九州おみやげ館」は、訪日観光客に対応し免税店業務を継続展開、Instagram を活用するなど利用客の利便性向上に留意し、店舗営業を行った。

また、北九州商工会議所が地域消費喚起策として発行した「Paycha」、北九州で開催されるイベント参加者優待企画「おもてなしキャンペーン」等への参画や「夜景商品コーナー」、「ご当地ガチャ」、「地球の歩き方北九州グッズ」の設置等地域施策等と連携した店舗ＰＲ・販促に努めた。

(3) ＪＲ小倉駅ＪＡＭ広場、ＪＡＭビジョン

ＪＲ小倉駅３階在来線改札口前のＪＡＭ広場において、北九州市関連の催事をはじめ、北九州圏域の観光物産展やにぎわいづくりのイベント誘致に取り組んだ。また、同広場の大型映像装置「ＪＡＭビジョン」において、市政情報や観光情報、広告に関するＣＭ等を放映した。

令和７年度は、当協会誘致部と連携し福岡県パワーリフティング協会のイベントを誘致するなど、同広場及びＪＡＭビジョンの利用拡大を図った。

Ⅲ 令和7年度決算

令和8年3月31日現在

1 貸借対照表(総括表)

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	963,602,590	1,007,792,945	△ 44,190,355
売掛金	12,407,100	9,540,543	2,866,557
未収金	61,879,455	67,624,989	△ 5,745,534
棚卸資産	7,632,726	7,623,194	9,532
貯蔵品	882,294	1,254,480	△ 372,186
前払金	789,249	874,833	△ 85,584
立替金	24,750	39,500	△ 14,750
仮払金	18,381,338	15,767,477	2,613,861
流動資産合計	1,065,599,502	1,110,517,961	△ 44,918,459
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
建物	160,038,448	196,500,648	△ 36,462,200
建物付属設備	292,693	326,793	△ 34,100
構築物	4	4	0
機械及び装置	7,807,575	9,559,087	△ 1,751,512
基本財産引当資産	761,421,301	761,421,301	0
減価償却引当資産	977,965,881	977,571,610	394,271
基本財産合計	1,907,525,902	1,945,379,443	△ 37,853,541
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	195,793,751	181,770,153	14,023,598
減価償却引当資産	1,824,312	1,824,312	0
目的事業引当資産	625,112,525	625,112,525	0
事業開催引当資産	7,650,000	7,650,000	0
施設耐震等改修工事引当資産	250,000,000	192,000,000	58,000,000
システム改修費用準備資産	0	34,572,500	△ 34,572,500
公益目的固定資産取得資金	42,800,000	0	42,800,000
施設・備品機能改善引当資産	34,200,000	0	34,200,000
施設耐震等修繕費用準備資金積立資産	75,000,000	75,000,000	0
施設大規模修繕・改修費用準備資産	32,822,000	30,000,000	2,822,000
周年記念事業準備資金	10,000,000	0	10,000,000
公益広報宣伝強化事業積立資金	10,000,000	0	10,000,000
特定資産合計	1,285,202,588	1,147,929,490	137,273,098
(3) その他固定資産			
建物	2,597,136	2,766,081	△ 168,945
建物付属設備	109,833	177,626	△ 67,793
構築物	728,709	873,643	△ 144,934
車両運搬具	844,409	1,133,919	△ 289,510
什器備品	1,532,126	2,292,768	△ 760,642
機械及び装置	4,020,072	2,340,989	1,679,083
ソフトウェア	44,352,527	24,554,842	19,797,685
リース資産	25,490,514	34,487,166	△ 8,996,652
保証金	150,000	232,500	△ 82,500
繰延税金資産(長期)	8,668,000	7,220,000	1,448,000
その他固定資産合計	88,493,326	76,079,534	12,413,792
固定資産合計	3,281,221,816	3,169,388,467	111,833,349
資産合計	4,346,821,318	4,279,906,428	66,914,890
II 負債の部			
1. 流動負債			
買掛金	11,288,078	7,693,867	3,594,211
未払金	136,116,974	98,143,539	37,973,435
前受金	52,024,143	34,898,629	17,125,514
預り金	29,911,607	31,833,695	△ 1,922,088
仮受金	1,472,550	1,090,040	382,510
未払法人税等	27,375,300	22,489,100	4,886,200
賞与引当金	17,788,276	16,877,881	910,395
流動負債合計	275,976,928	213,026,751	62,950,177
2. 固定負債			
退職給付引当金	195,793,751	181,770,153	14,023,598
リース債務	25,490,514	34,487,166	△ 8,996,652
預かり敷金	600,000	600,000	0
固定負債合計	221,884,265	216,857,319	5,026,946
負債合計	497,861,193	429,884,070	67,977,123
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	756,000,000	756,000,000	0
展示場設備受贈益	185,451,150	208,691,280	△ 23,240,130
基本財産運用益	5,421,301	5,421,301	0
指定正味財産合計	946,872,451	970,112,581	△ 23,240,130
(うち基本財産への充当額)	(946,872,451)	(970,112,581)	(△ 23,240,130)
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	2,902,087,674	2,879,909,777	22,177,897
(うち特定資産への充当額)	(960,653,451)	(975,266,862)	(△ 14,613,411)
(うち特定資産への充当額)	(1,089,408,837)	(966,159,337)	(123,249,500)
正味財産合計	3,848,960,125	3,850,022,358	△ 1,062,233
負債及び正味財産合計	4,346,821,318	4,279,906,428	66,914,890

2 正味財産増減計算書（総括表）

令和7年4月1日 から 令和8年3月31日 まで

（単位：円）

	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
（1）経常収益			
基本財産運用益	7,054,569	6,242,549	812,020
展示場設備受贈益	23,240,130	23,240,130	0
特定資産運用益	2,332,000	2,322,565	9,435
受取会費	7,755,000	7,991,500	△ 236,500
事業収益	965,167,232	936,264,680	28,902,552
受取補助金等	278,025,386	299,910,995	△ 21,885,609
受取負担金	76,019,230	73,132,731	2,886,499
雑収益	14,839,855	13,835,054	1,004,801
経常収益計	1,374,433,402	1,362,940,204	11,493,198
（2）経常費用			
事業費	1,318,017,865	1,222,283,842	95,734,023
管理費	8,310,340	14,156,076	△ 5,845,736
経常費用計	1,326,328,205	1,236,439,918	89,888,287
当期経常増減額	48,105,197	126,500,286	△ 78,395,089
2. 経常外増減の部			
（1）経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
（2）経常外費用			
経常外費用計	0	3	△ 3
当期経常外増減額	0	△ 3	3
他会計振替額	0	0	0
法人税、住民税及び事業税	27,375,300	22,489,100	4,886,200
法人税等調整額	△ 1,448,000	1,280,000	△ 2,728,000
当期一般正味財産増減額	22,177,897	102,731,183	△ 80,553,286
一般正味財産期首残高	2,879,909,777	2,777,178,594	102,731,183
一般正味財産期末残高	2,902,087,674	2,879,909,777	22,177,897
II 指定正味財産増減の部			
基本財産運用益	5,772,800	4,398,300	1,374,500
一般正味財産への振替額	29,012,930	27,638,430	1,374,500
当期指定正味財産増減額	△ 23,240,130	△ 23,240,130	0
指定正味財産期首残高	970,112,581	993,352,711	△ 23,240,130
指定正味財産期末残高	946,872,451	970,112,581	△ 23,240,130
III 正味財産期末残高	3,848,960,125	3,850,022,358	△ 1,062,233

IV 令和8年度事業計画

1 総論

【協会の活動】

当協会は「小倉駅新幹線口コンベンションゾーン」のMICE施設の一体的・有機的な管理運営を行うとともに、MICEと観光の両事業の連携による効果的な情報発信機能を有しており、大きな強みとなっている。この強みを活かし、当協会のミッションである

○国内外からの観光客の誘致・滞在化を促進する観光事業の推進

○日本屈指のMICE開催拠点＝小倉駅新幹線口国際コンベンションゾーンの一体的運営とグローバル志向のMICEの誘致・支援

に取り組み、「都市ブランド力の向上、新たな魅力創造及びシビックプライドの醸成に貢献し、国内外から選ばれるまちを目指す」ことをビジョンとして掲げる。

当協会ではこのミッションを果たすため、次の活動方針に基づき、各種事業を展開していく。

(1) 主催展示会事業の強化

地域産業の発展や課題解決に必要な技術情報の提供と、展示会・商談会の相乗効果による販路拡大支援の強化、国・県・市の施策とリンクさせた関係機関との協働による情報発信の充実、「半導体」「GX」「高度人材」等の成長分野を重点テーマとした新規企画の実施。

(2) MICE誘致の強化

学会のキーパーソンへのフェイス・トゥ・フェイス・マーケティングの強化、国内外での商談会等での新規会議案件の獲得、誘致開催助成金の活用、広域ネットワークでの情報交換や連携によるMICE誘致、営業支援策の強化。

(3) 貸館利用者の誘致・営業の強化

市や地域と連携した国際スポーツやエンターテインメントイベントの戦略的な誘致の実施、新規利用者開拓と継続開催に繋がるための営業フォローの強化、提案型営業力強化のための営業人材のスキルアップ。

(4) 観光関連事業の強化

ア 北九州市及び観光関連企業と連携した観光客誘致とPRの効果的な実施

イ 北九州市観光情報サイトやホームページ・SNSを活用した観光情報の発信

ウ 観光案内ボランティア制度を運営し、観光に関する専門人材を育成

エ 観光案内所、北九州おみやげ館、小倉駅JAM広場等の観光施設を運営し、観光情報の提供やサービス向上に向けた取り組みを実施

オ 北九州市内大学等の新入生に向けた名所や施設のバックヤードを巡るツアーの実施

カ 新規に作成するデジタルマップ、英語版マップを用いた誘客の強化

キ 特産品の紹介パンフレットの作成、ECサイトの運営

ク 北九州市及びその近隣地域を訪れる観光客等への募集型旅行商品の企画・販売

(5) お客様満足度の向上

主催者に対する広報などの開催支援や継続開催に向けたフォローの実施、個々の職員のスキルアップやDX推進などによる万全な開催支援体制の構築、イベント会場でのおみやげ物販コーナーの設置や観光情報の提供。

【指定管理計画の目標実現に向けて】

北九州国際展示場（北九州メッセ）および北九州国際会議場の第5期指定管理期間2年目となる令和8年度は、指定管理施設の活用、周辺施設や関係団体との連携を強化し、指定管理計画に掲げる目標（来場者数96万人（北九州国際展示場（北九州メッセ）、西日本総合展示場、北九州国際会議場）、コンベンション誘致件数250件など）の達成に向け、引き続き努力する。

2 各論

主催展示会事業の強化

(1) 主催事業の展開

地域産業界は世界の情勢に大きな影響を受け、DXや脱炭素化の推進、労働力問題など様々な課題に直面している。これらの課題をワンストップで解決する「課題解決EXPO」では、「ものづくり・DX・環境・エネルギー・中小企業」を主なキーワードとし、地域企業の課題解決にむけた情報発信を継続して実施する。

また、「西日本陶磁器フェスタ」では、全国の窯元が一堂に会して自慢の陶磁器を紹介するとともに、その他伝統工芸品を含めた普及拡大やロールケーキをはじめとした食の企画、お子様向けイベントの充実を図り、新たな来場者誘致に取り組む。

あわせて、展示会運営のDX化を推進し、各種届出のWEB申請や来場者情報登録、その取得サービスの改善などに取組み、業務の効率化に努める。

《令和8年度開催の事業》

事業名		開催期日	入場目標	出展目標
課題解決EXPO2026	西日本製造技術イノベーション2026	7月8日～ 7月10日	18,000人	35社・団体
	西日本DX推進フェア2026			60社・団体
	ふくおか未来ものづくり技術振興展 (中小企業テクノフェアin九州2026内)			25社・団体
	エコテクノ2026			50社・団体
	ベンチャー・メッセ2026			10社・団体
	中小企業テクノフェアin九州2026			80社・団体
第48回西日本陶磁器フェスタ		9月18日～23日	50,000人	245社
7事業			68,000人	505社・団体

(2) 国際ビジネスの推進

展示会の国際化とMICE推進を目的にMOUを締結している釜山広域市のBEXCO（国際MICE施設）と連携し、主催事業への海外バイヤー誘致等国际的な取引促進に取り組む。

さらに、釜山に加え他のアジア地域の展示施設との連携を模索し、国際ビジネスの推進に取り組む。

また、「課題解決EXPO」にて在日海外公館や経済団体等の出展により、九州・山口地域の企業の国際競争力強化のための情報発信を行い、海外取引・投資の拡大に取り組む。

MICE誘致の強化

(1) MICE誘致を推進する人的ネットワークの構築と活用

誘致営業の効果を最大化するため、市内、県外及び海外のキーパーソンや学会協会、PCOへの面談営業を強化する。また、首都圏に在住するキーパーソン、有力な学会協会関係者とのネットワークの継続とその拡大を図り、開催支援情報、地元産品の魅力を、誘致中案件等の所 holder に効率よく紹介するため「北九州市MICE倶楽部首都圏交流会」を開催する。

その他、ICCA（国際会議協会）への継続加入及び緊密な連携により、ICCA会議の内容や学会協会本部の開催地公募状況など、グローバルレベルの情報収集を図り、さらに、ICCA開催件数の拡大に向けて、通常の誘致営業の際にも国際会議の誘致を念頭に入れ活動する。（昨年開催件数 16 件、国内 7 位）

加えて、JNTO（日本政府観光局）が主催する各種商談会にも出展し、国際及び国内会議案件の新規開拓及び獲得を目指す。

(2) スポーツ大会等の誘致

市内のスポーツ団体・体育施設と連携し、市内宿泊者の増加や北九州市のPRにつながるスポーツ大会を引き続き誘致する。また、スポーツ大会の前後に関連イベントとして開催される選手・指導者育成会・研修会や講演会などスポーツイベントの積極的な誘致活動を行う。

(3) 北九州市MICE開催助成金の戦略的な活用

昨今、MICEを推進する都市の支援内容も充実する中、北九州市MICE開催助成金は、重要な誘因となっており、競合する国内外都市との誘致競争を勝ち抜くためには必要不可欠である。今後とも主催者からの聞き取りやアンケートなどから主催者ニーズの把握に努め、行政と連携し、助成金制度を効果的に運用することで、より多くの会議誘致に繋げる。

(4) ステークホルダーとの連携

平成 27 年に市内 4 大学（九州工業大学、九州歯科大学、北九州市立大学、産業医科大学）、北九州市、北九州商工会議所との間で「コンベンションの誘致及び開催に関する連携協定」を締結し、MICE誘致についての有機的な連携を図っている。今後もより一層ローカルホストとの連携協同を強化し、新規国際会議の創出・拡大を図るため、連携協定の拡大の検討、また、定期的に大学の教授会等において支援情報等を発信する。

(5) 情報発信の強化・PRツールの作成

国内外における情報発信ツールとしてSNSやホームページの活用が重要であるため、引き続き誘致部の Facebook、LinkedIn 及びホームページを活用し、誘致に関する情報（助成金や会議開催の情報等）を日本語及び英語で発信する。ホームページについては効果的なものとなるよう改修を行い、最新情報を発信する。

(6) MICE開催支援制度

会議・大会主催者から高い評価を得ているJR小倉駅北口の歓迎看板設置や地元産品の提供、エキスカーションの際のバスの手配などの側面支援を継続して実施する。また、北九州市の近代産業遺産、産業観光、優れた観光素材等を魅力としたアフターコンベンション・メニューとして積極的に紹介することや、観光事業部旅行業の市内を探訪するツアーも積極的に活用する

など、さらにMICE参加者の満足度を高め、波及効果の拡大を目指す。

貸館利用者の誘致・営業の強化

(1) エンターテインメント分野の誘致推進

令和6年度に発足した「北九州市コンサート誘致コンソーシアム」の取組みと協調し、全国規模で開催されるゲームコンテンツ、アーティスト及びアイドルや声優関連のコンサート等の趣味性の高いエンターテインメント分野のイベントを誘致することで、会場利用の促進と来場者の増加を図ることにより、市の経済波及効果を高め「稼げるまち」の実現に貢献する。

(2) 新規利用者の開拓

従来型の見本市・BtoBイベントに加え、BtoCイベントの誘致について、自動車、文具・事務機、建材、食品、衣料・服飾、企業レクリエーションなどの業種・分野をターゲットとした誘致に注力し、今後の継続開催に繋がる営業フォローを行う。

(3) 長期休暇中の稼働率向上へ向けた取り組み

お盆・年末年始等の長期休暇中は、高い集客力を有するファミリー向けイベント、ゲーム関連イベントやコンサートなどのエンターテインメントをターゲットとし、メディアやコンテンツホルダーなどを対象に積極的に誘致することで稼働率の向上と来場者数の拡大を図る。

(4) リピーターの利用再開と既存利用者の再構築

施設利用実績はほぼコロナ禍前の水準に達しているが、開催を完全に中止している過去利用者もあり、引き続き積極的に日程提案を行い、利用再開につなげる。また、年間複数回利用や同業他社が特定期間に集中開催する自動車、建材・電設資材、食品、就職・転職、資格試験・入試、ランドセル等の業界については、会場利用日程の年間提案や重複・連続を避けた日程調整による営業を実施し、安定的かつ効率的な会場稼働を目指す。

(5) エビデンスベースによる営業力強化

提案型営業の基本から対人対応力、思考力、提案力など営業スキルを強化し、各分野の市場動向を踏まえ、データ分析に基づいた営業活動を行う。

(6) 「国際スポーツ大会」等の誘致への取り組み

国際スポーツ大会の誘致を実現するため、都市ブランド創造局スポーツ振興課と連携し、北九州メッセ（本会場）と西日本総合展示場（サブ会場&プレスルーム等）の日程調整を行い、市の経済波及効果の向上に向けた誘致に取り組む。国際スポーツ大会は、北九州市及び北九州メッセの魅力と知名度を国内外に発信できる絶好の機会であるため、営業強化を図る。令和10年3月に「2028FUKUOKA世界卓球（団体戦）」の開催が決定している。

(7) 集客にぎわいイベント」への取り組み

来場者数の年間目標達成と、長期休暇中（主に夏休みや冬休み）の稼働率向上対策として、テレビ局や新聞社等のメディアやコンテンツホルダーとタイアップした「集客にぎわいイベント」の開催に引き続き取り組み、小倉駅北口コンベンションゾーンの賑わい創出を図る。

令和8年度は7月に、「プラレール博 in KITAKYUSHU」を西日本総合展示場で、3月に「西日本釣り博2027」を北九州メッセ及び西日本総合展示場全館で開催する。

広報・宣伝、地域連携

(1) 広報・宣伝

協会ホームページにおいて、施設で開催されるイベント情報をはじめ、施設紹介・主催事業・コンベンション誘致・本市観光等の最新情報を提供するとともに、ＪＲ小倉駅ＪＡＭビジョンや、ペDESTリアンデッキ設置のデジタルサイネージ等を積極的に活用し、施設や催事に関する情報を発信することで、視覚的に訴求力の高い広告効果を創出し、顧客の認知度を高める。

(2) 地域連携（小倉駅新幹線口地区振興連絡会などとの連携）

小倉駅新幹線口地区振興連絡会と連携し、近隣の関係団体参加型の清掃活動やイベント等の実施により、にぎわい創出などに取り組む。また、ＪＲ九州・ＪＲ西日本と連携し、主要催事のポスター・チラシを主要駅等に掲出し、広域からの集客向上を図る。

施設の管理・運営

(1) 主催者本位の施設環境の確保

主催者が希望する規模や内容に応じて、最適な会場やレイアウトプランを提案し、安全を確保した施設環境を提供する。また、主催者に的確な情報を伝え、安全かつ衛生的なイベントの実施につなげる。

(2) ＷＥＢ館内案内システム等の導入検討

利用者が館内をＷＥＢサイト上で視察できるバーチャルツアーの導入を検討する。施設の利便性向上及び業務効率化のため、施設利用申請から請求書発行までをオンラインで完結できるように、ＷＥＢサイトと基幹システムの機能連携改修について調整・検討を行う。

(3) 災害による被害の甚大化に対応する防災体制の構築

常日頃から、施設の点検を実施することで、危険箇所や不良箇所の特定とその補修修繕に努め、利用者の安全を確保すべく細心の注意を払う。また、緊急時の対処方法や連絡体制を構築し、台風、大地震等の災害発生が予想される場合、あるいは実際に発生した際に速やかに行動を起こせるよう備える。

(4) 施設・設備の改修等

西日本総合展示場の大規模改修に向けて、現状を把握するため、劣化度診断を実施した上で、中長期の施設保全計画を検討する。また、西日本総合展示場における中展示場空調設備や駐車場への設備導入、北九州メッセでの間仕切りや入退館管理システムの更新、ＡＩＭ３階の空調改修工事、北九州国際会議場の空調エアハンドリング改修など、施設・設備の維持のため適切な対応を進める。

観光事業

(1) 観光客誘致事業・滞在化促進事業

ア 他都市及び旅行者等へのＰＲ活動

北九州市・観光関連企業・当協会で組織した「北九州市国内観光客等誘致促進協議会」、「北九州市国際観光推進協議会」にて、観光客に有意義なコンテンツの情報をＰＲする。

イ 東アジアを中心とした海外でのセールス活動の継続及びインバウンド施策の実施

北九州空港海外路線の運航に併せた本市の観光素材の情報発信・旅行社へのセールスを、海外旅行社やランドオペレーターとも連携して実施する。

ウ 国内向けの観光キャンペーンの実施

観光キャンペーンや旅行社へのセールス活動を市内の観光事業者等と協力して行い、市内観光の推進を図り、本市への誘客や夜型観光資源などを活用した滞在化促進を目指す。

(2) 観光都市北九州の広報宣伝と観光情報の収集・調査

「北九州観光イベントだより」の発行や当協会ホームページ観光情報サイトの運用、北九州市の観光資源を紹介したカレンダーや絵葉書のビジュアルツールを発行する。

(3) 観光に関する人材の育成及び啓発

観光ボランティア制度（R7.4月現在 115 名）を運営するとともに、新たな観光ボランティアの担い手の養成や若年層の観光知識習得を目的に北九州観光市民大学を開講する。

(4) 観光に関する施設の管理・運営

ア 観光案内所等の運営

「北九州市観光案内所運営協議会」を通じ、市内 4 カ所において観光案内所を運営し、国内外からの観光客に対しニーズに合わせた観光情報を提供する。

イ 北九州産業観光センター

北九州市、北九州商工会議所と当協会で組織した「北九州産業観光センター」を通じ、世界遺産や工場夜景を核とした産業観光と夜型観光を推進する。

(5) 土産品・特産品売店や小倉駅イベント広場等の運営

「北九州おみやげ館」「TOTOミュージアム」での土産品・特産品売店の運営や、小倉駅 JAM 広場での催事開催、JAM ビジョンの運用等により、まちのにぎわいを創出する。

(6) 特産品の紹介・宣伝

北九州市特産品を紹介するパンフレットの市内各所配置、特産品を通販サイト等で購入できるシステムの管理運営、SNS 情報発信のほか、市内外イベント等へ臨時売店を出店する。

(7) 北九州市及びその近隣地域における旅行業

ア 国内向け旅行事業の強化

北九州市及び市近隣地域を訪れる観光客やコンベンション等参加者に、さらなる滞在時間の延長、地元経済の消費拡大を図るため、募集型企画旅行商品の企画・販売を行う。

イ インバウンド向け旅行事業の取組み

インバウンド誘客を図る為、北九州市域観光情報を掲載した英語版マップ「NOW MAP KITAKYUSHU」やデジタルガイド「KITAKYUSHU TRAVEL GUIDE」を作成する。また、北九州市・ギラヴァンツ北九州と提携し、「東アジアユース U12 サッカー大会」参加者（滞在期間 8/5～13、人数 60 名）に、市内観光ツアーや地元サッカーチームとの交流イベントを実施する。

ウ MICE 部門との連携強化

課題解決 EXPO や、誘致した国際会議・学会への参加者に対し、アフターコンベンションツアーを提供するなど、当協会 MICE 部門と連携して事業を行う。

V 令和8年度予算

収 支 予 算 書 総 括 表

令和8年4月1日から令和9年3月31日まで

(単位：円)

科 目	公益目的事業 会計	収益事業 会計	法人会計	内部取引控除	合 計
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益	443,000	410,000	5,773,000	0	6,626,000
展示場設備受贈益	17,662,000	5,578,000	0	0	23,240,000
特定資産運用益	2,223,000	109,000	0	0	2,332,000
受取会費	9,075,000	0	0	0	9,075,000
事業収益	402,048,000	613,267,000	0	0	1,015,315,000
受取補助金等	276,527,000	0	219,000	0	276,746,000
受取負担金	57,402,000	48,820,000	0	0	106,222,000
協賛金	500,000	14,600,000	0	0	15,100,000
雑収益	7,344,000	7,876,000	0	0	15,220,000
経常収益計	773,224,000	690,660,000	5,992,000	0	1,469,876,000
(2) 経常費用					
事業費	889,232,000	545,879,000	0	0	1,435,111,000
管理費	0	0	10,850,000	0	10,850,000
経常費用計	889,232,000	545,879,000	10,850,000	0	1,445,961,000
評価損益等調整前当期経常増減額	▲ 116,008,000	144,781,000	▲ 4,858,000	0	23,915,000
基本財産評価損益等	0	0	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0	0	0
評価損益等計	0	0	0	0	0
当期経常増減額	▲ 116,008,000	144,781,000	▲ 4,858,000	0	23,915,000
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用					
経常外費用計	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0
他会計振替額	70,327,000	▲ 74,454,000	4,127,000		0
法人税、住民税及び事業税	0	22,915,000	0	0	22,915,000
当期一般正味財産増減額	▲ 45,681,000	47,412,000	▲ 731,000	0	1,000,000
一般正味財産期首残高	1,798,822,558	611,480,982	▲ 65,887,623	0	2,344,415,917
一般正味財産期末残高	1,753,141,558	658,892,982	▲ 66,618,623	0	2,345,415,917
II 指定正味財産増減の部					
基本財産運用益	0	0	5,773,000	0	5,773,000
一般正味財産への振替額	17,662,000	5,578,000	5,773,000	0	29,013,000
当期指定正味財産増減額	▲ 17,662,000	▲ 5,578,000	0	0	▲ 23,240,000
指定正味財産期首残高	118,204,359	37,324,485	761,421,282	0	916,950,126
指定正味財産調整額	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	100,542,359	31,746,485	761,421,282	0	893,710,126
III 正味財産期末残高	1,853,683,917	690,639,467	694,802,659	0	3,239,126,043

VI 役員名簿等

1 役員名簿

令和8年7月1日現在

役 職 名	氏 名	備 考
理 事 長	津 田 純 嗣	北九州商工会議所 会頭
専 務 理 事	小 石 富 美 恵	(公財)北九州観光コンベンション協会
理 事	田 中 亮 一 郎	北九州市国際観光推進協議会 会長
	森 川 洋 一	北九州市都市ブランド創造局にぎわい担当理事
//	安 部 高 子	北九州商工会議所女性会 会長
//	今 崎 正 明	(一財)九州オープンイノベーションセンター 専務理事
//	廣 瀬 香	(一社)九州経済連合会 総務国際部長
//	関 宣 昭	NPO法人里山を考える会 代表理事
//	野 口 伸 一	(株)リーガロイヤルホテル小倉 代表取締役社長(兼)総支配人
監 事	岩 佐 健 史	北九州市会計室長
//	羽 田 野 隆 士	北九州商工会議所 専務理事

2 市との特命随意契約の状況（令和7年度実績）

市からの特命随意契約による委託の状況			左のうち政策連携団体からの再委託の状況				
委託業務名	委託 金額 (千円)	特命理由	再委託の 業務内容	委託 金額 (千円)	契約相手	契約 方法	特命随意 契約の場合 その理由
小倉駅 JAM ビジョン放映業務	473	小倉駅 JAM ビジョンの所有者であり、管理者であるため。	再委託なし				
「門司港ガイドおまかせコース」運営業務	80	本業務は、門司港エリア全体の文化や歴史及び最新の観光情報に精通し、観光客の多岐にわたる要望にきめ細やかなスキルで対応できるガイドを安定的に派遣することが必要な業務である。 これらの条件に対応可能な事業者は、ボランティアガイドを100名以上有しかつ年間約2万人の観光客を案内する北九州観光コンベンション協会のみであるため。	再委託なし				
令和7年度 北九州市立美術館展覧会広報・宣伝業務委託（小倉駅 JAM ビジョン）	872	小倉駅 JAM ビジョンの所有者であり、管理者であるため。	再委託なし				
松本零士展 JAM ビジョン広告掲出業務	99	小倉駅 JAM ビジョンの所有者であり、管理者であるため。	再委託なし				
「備える防災の日2025」における小倉駅 JAM ビジョン貸切放映業務	99	本業務委託は、令和7年8月31日（日）に開催する「備える防災の日 2025」にあたり、学生の防災活動発表資料及び危機管理室で作成した啓発動画等を放映するために委託するもの。 当該箇所の貸切及び映像を放映するためには、ビジョンの所有者であり、管理者である公益財団法人北九州観光コンベンション協会と契約する他ない。 以上のことから、業務の目的や内容等の条件を考慮し、上記記載のガイドライン第2号関連10により、特命で随意契約をおこなうもの。	再委託なし				
国勢調査2025 小倉駅 JAM ビジョン動画放映業務および JAM 広場ポスターサイン掲出料	713	本業務は、令和7年国勢調査の実施周知及びインターネット回答を促進するため、小倉駅 JAM 広場において広告掲出するものである。 本市で最多の乗降客数を誇る小倉駅の JAM 広場における情報発信は、市内外から訪れる多くの人々に啓発活動を行うには、高い広告効果が期待できるた	再委託なし				

		め、公益財団法人北九州観光コンベンション協会と特命随意契約を締結するもの。	
北九州市の消防団 P R 動画 小倉駅 JAM ビジョン放映 業務	396	JR 小倉駅の大型 JAM ビジョン で広告を放映するには、当該広 告媒体を所有・管理している北 九州観光コンベンション協会 でのみ実施可能である。 上記の理由から、今回の委託業 務を契約及び履行できるもの は、北九州観光コンベンション 協会以外にないため特命とす るもの。	再委託なし
小倉駅 J A M ビジ ョンでの「食肉に よる食中毒予防」 動画放映	127	J R 小倉駅 J A M 広場マルチ ビジョンは、平成 22 年から社 団法人北九州市観光協会（平成 29 年度に公益財団法人北九州 観光コンベンション協会へ名 称変更）が管理運営しているた め、公益財団法人北九州観光コ ンベンション協会と契約する 必要がある。	再委託なし
合 計	2,859		合 計